

## ソフトバンク株式会社

### 2019年3月期第3四半期投資家向け説明会 主な質疑応答

日時 2019年2月5日(火) 午後6時～7時

登壇者 藤原取締役 専務執行役員兼 CFO、内藤執行役員財務経理本部本部長、  
廣野財務戦略本部本部長

Q1 2018年度第3四半期までの業績は好調な一方で、通期業績予想は変更しないとのことだが、第4四半期にどのような施策を予定しているのか。金額の規模感も解説してほしい。

A1 来年度に備えて、打てる手は打ちたい。

Q2 上場から1か月以上が経過したが、業績への影響という観点から、上場時から方針としての変更があれば教えてほしい。

A2 今期の業績予想は、上場以前に設計しており、そのシナリオは順調に進んだと考えている。特に ARPU は底を打ってプラスにもっていきたいと考えていたが、そこがうまくいったのは大変良かったと考えている。

Q3 ファーウェイ社製機器が使用できなくなった場合の費用を業績予想に織り込んでいるか。

A3 現時点では、4G にて使用している全機器を直ちに交換する必要があるということではないと認識している。元々4G から5G へ移行する中で4G の更新投資を見込んでいたため、設備投資額全体に大きな影響はないと考えている。5G になったときにデータに影響を与える可能性のある4G 設備に関しては、数十億円程度の更新投資を実施予定。

Q4 「安定的な1株当たり配当」の意味を教えてください。

A4 基本的な方針は、配当性向が85%程度を目安とするということだが、仮に減益した場合にも減配することがないように運営していく。高い配当を期待されていることは理解している。来期も配当は維持・拡大していきたい。

Q5 ソリューション系の売上高、例えば法人事業のソリューション等売上の内訳について、金額規模等を教えてください。

A5 クラウド、ロボット、デジタル広告、RPAなどが積みあがっている。

- Q6 PHS について、巻取り計画や解約者の動向を教えてください。
- A6 PHS の新規契約の受付は停止している。業績への影響は、それほど大きくない。
- Q7 費用内訳の各項目の増減の方向性を教えてください。
- A7 「成長戦略」と「構造改革」を掲げており、コスト削減には継続的に取り組んでいる。販売促進関連は、オペレーションという意味ではもう一段効率化したいが、競争もあるため競争環境を見ながらということになる。技術関連は、新しい技術への対応などでコストを積み増している。全体的にはコストを抑制していきたい。
- Q8 2018 年度第 3 四半期の業績をみると、「SoftBank 光」の契約数は増えているが、通信設備使用料が増えていないのはなぜか。
- A8 通信設備使用料は、「SoftBank 光」の契約数増加に伴う増加はあるものの、一時的な費用減少要因もあり、契約数増加ほどには増えていないように見えている。
- Q9 増収増益などのメッセージ性を出している競合他社もあるが。来年度に向けての姿勢を教えてください。
- A9 「成長」と「株主還元」を両立させていきたい。
- Q10 2018 年度第 3 四半期において「SoftBank 光」の ARPU が改善した要因を教えてください。
- A10 IFRS15 に基づく会計処理変更による一時的なもの。
- Q11 「ソフトバンク」ブランドから「ワイモバイル」ブランドへの移行についてはいつピークアウトするのか。また、今後は「ワイモバイル」ブランドから「ソフトバンク」ブランドへの移行が増え、ARPU も増えていくという考え方でよいか。
- A11 今後の状況次第。今後ずっと ARPU が増えるとは考えていないが、底を打ったと認識。
- Q12 「ソフトバンク」ブランドと「ワイモバイル」ブランドとが両方取り扱われているデュアルショップを展開されているが、2 ブランド展開によりどのような変化があったのか教えてください。
- A12 MVNO が拡大する中でも、契約の外部流失が抑えられている。デュアルショップにより、「ワイモバイル」ブランドの提供エリアを拡大できた。

Q13 割引前 ARPU が下がっているが、どういう入り繰りになっているのか。割引前 ARPU は下がり続けるのか。

A13 割引前 ARPU は下がる見通し。「ワイモバイル」ブランドや LINE モバイルブランドの単価差が大きい。一方で 4 年割賦や携帯電話端末代金と通話料金を分けた端末分離プランの増加により割引 ARPU は改善。競争環境次第だが、このトレンドはしばらく続く見込み。